

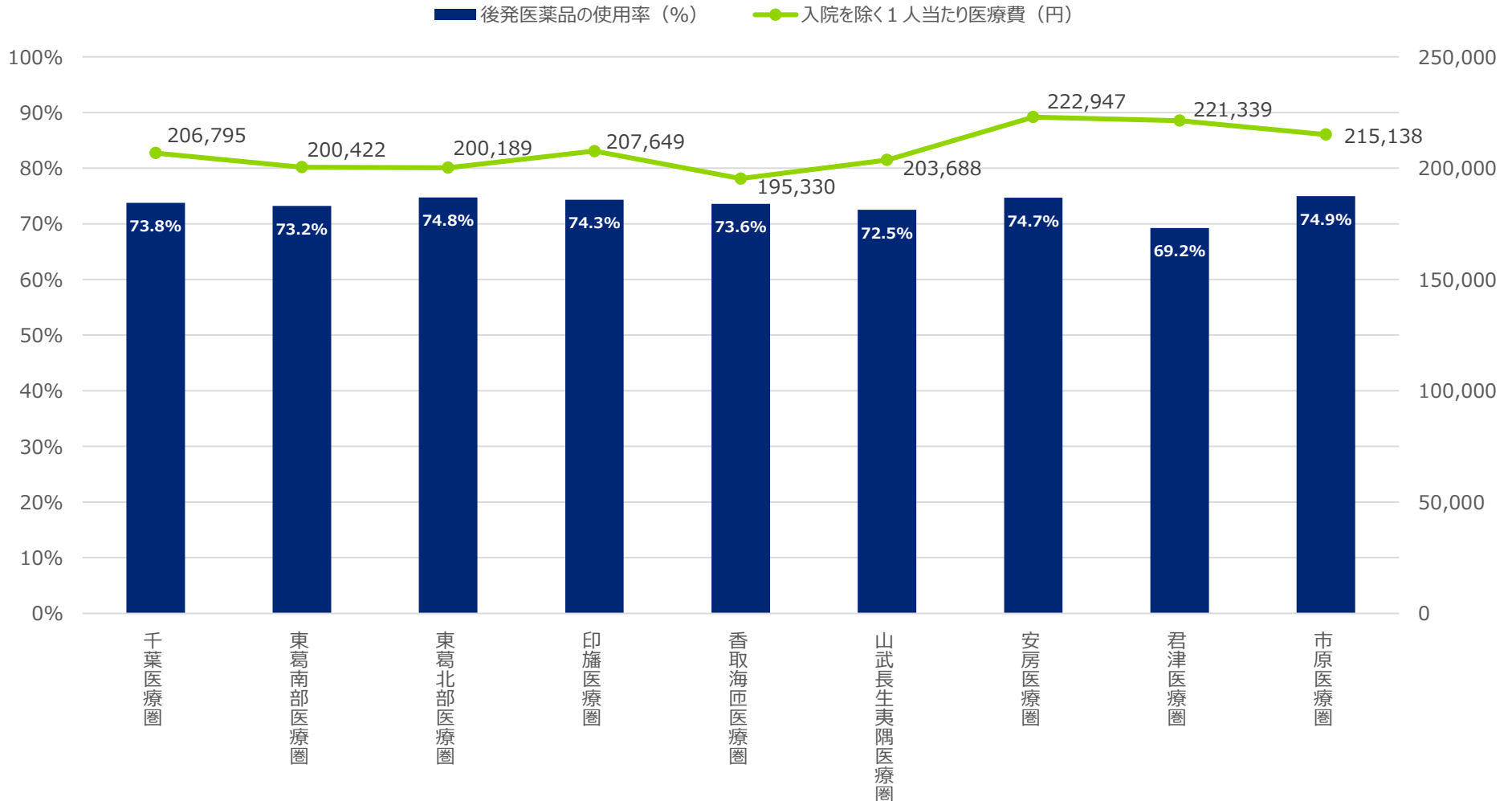
6-2. 後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費との関連（国保）2次医療圏

*入院は除く

- 後発医薬品の使用率について、2次医療圏別に見ると、市原医療圏で最も高く、君津医療圏で最も低くなっており、その差は5.7%となっている。
- 被保険者1人当たり医療費では、安房医療圏で最も高く、香取海匠医療圏が最も低くなっている。

2次医療圏

<国保>

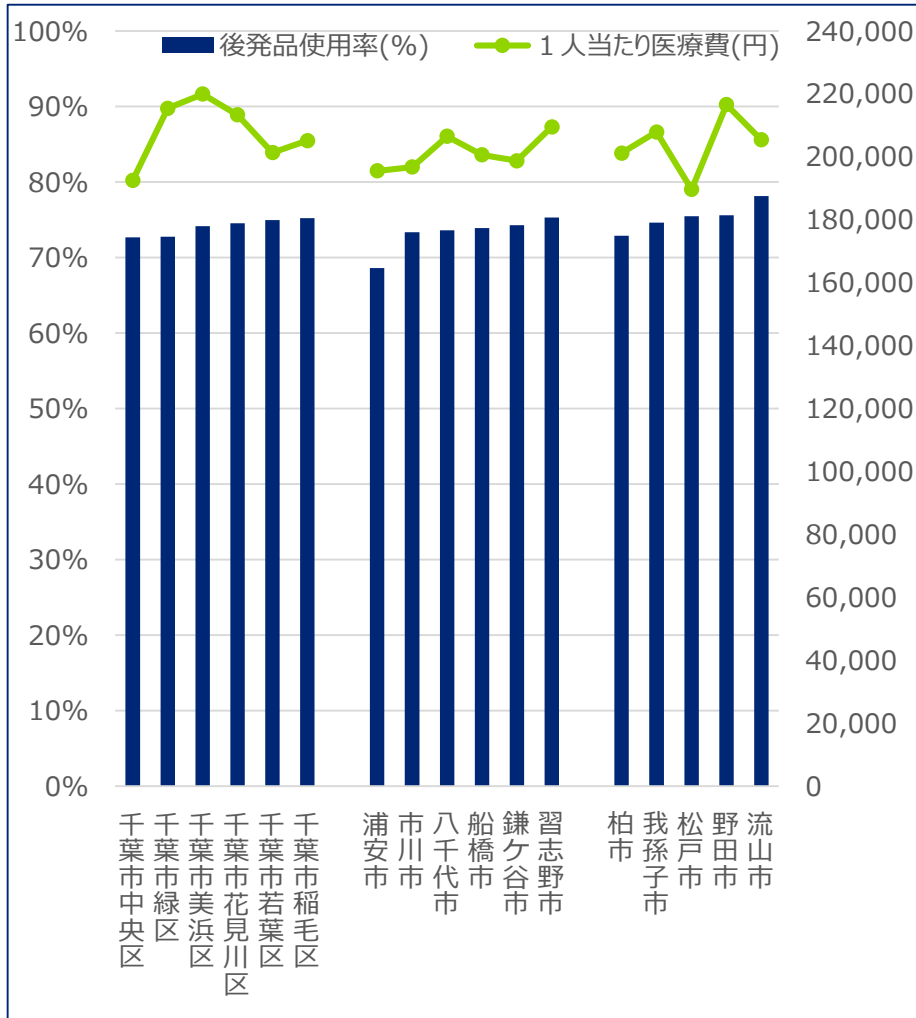


6-2. 後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費との関連（国保） 千葉・東葛南部・東葛北部／印旛・香取海匝

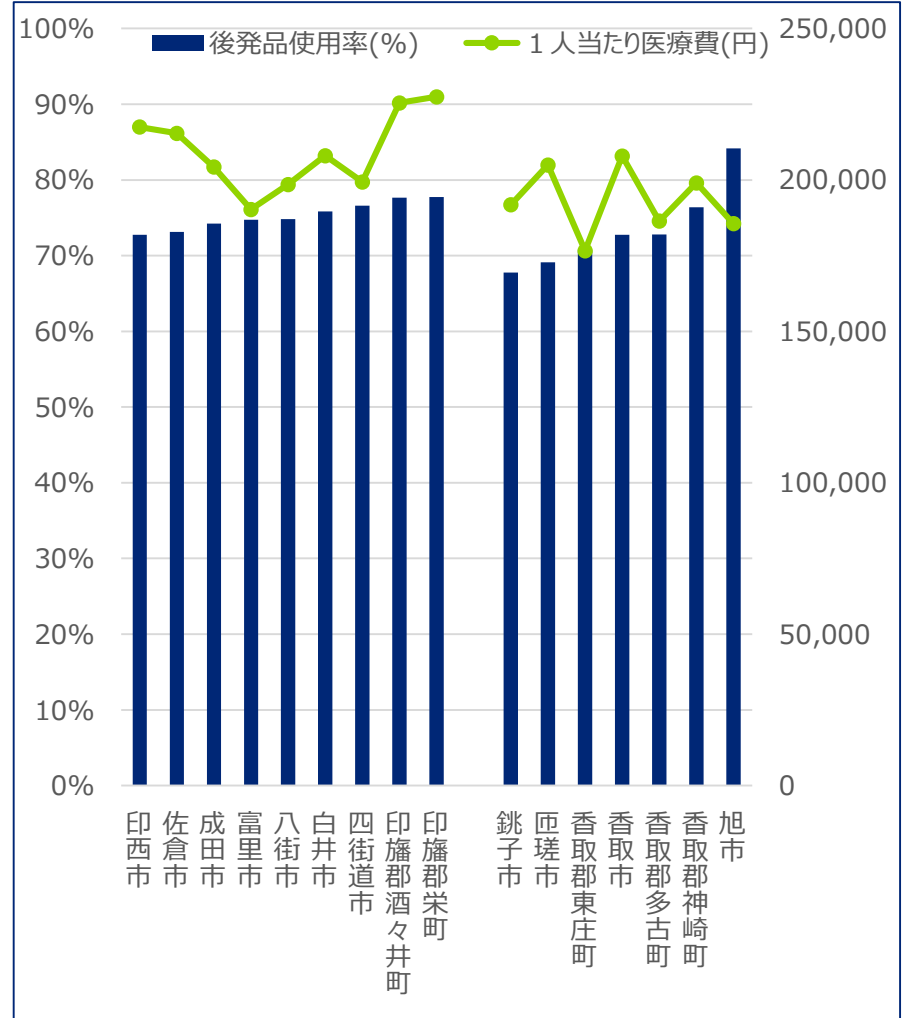
*入院は除く

- 千葉・東葛南部・東葛北部では後発医薬品の使用率は浦安市が低く、1人当たり医療費では、千葉市美浜区が最も高い。
- 印旛では、印旛郡栄町の一人当たり医療費が高く、香取海匝では旭市を除き、全体的に後発医薬品の使用率が低めである。

千葉・東葛南部・東葛北部



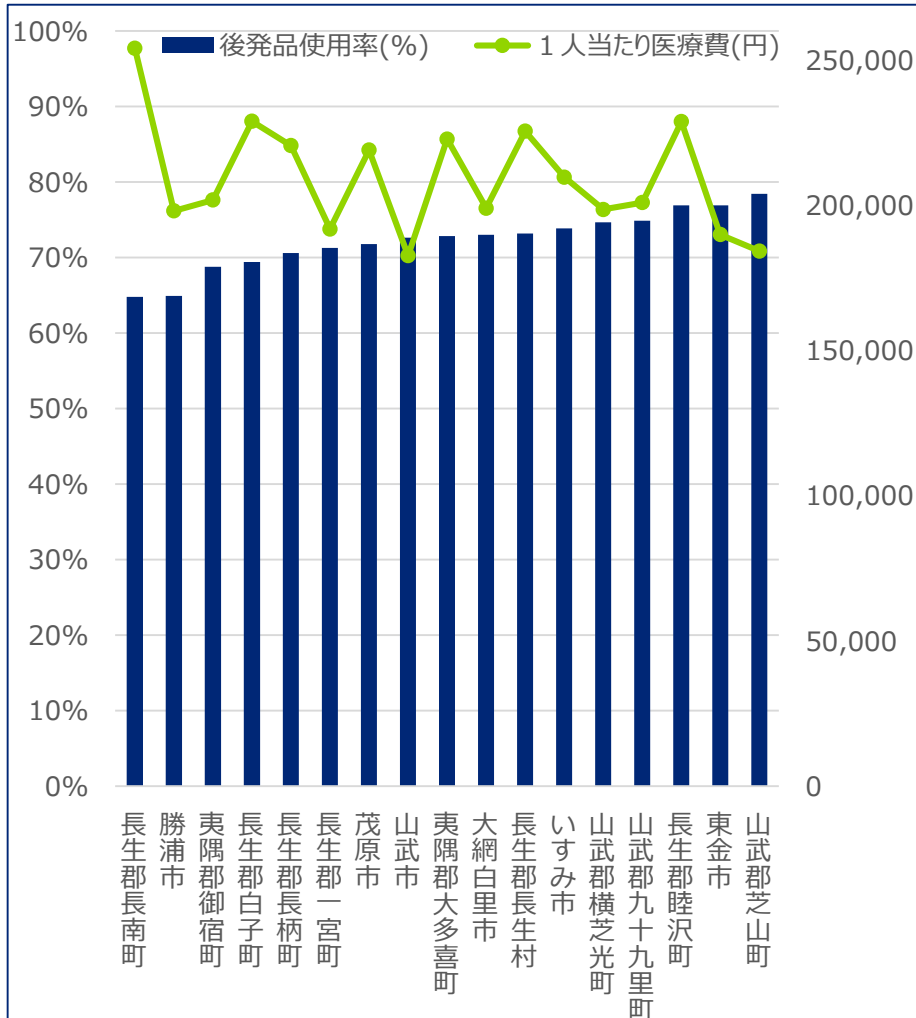
印旛・香取海匝



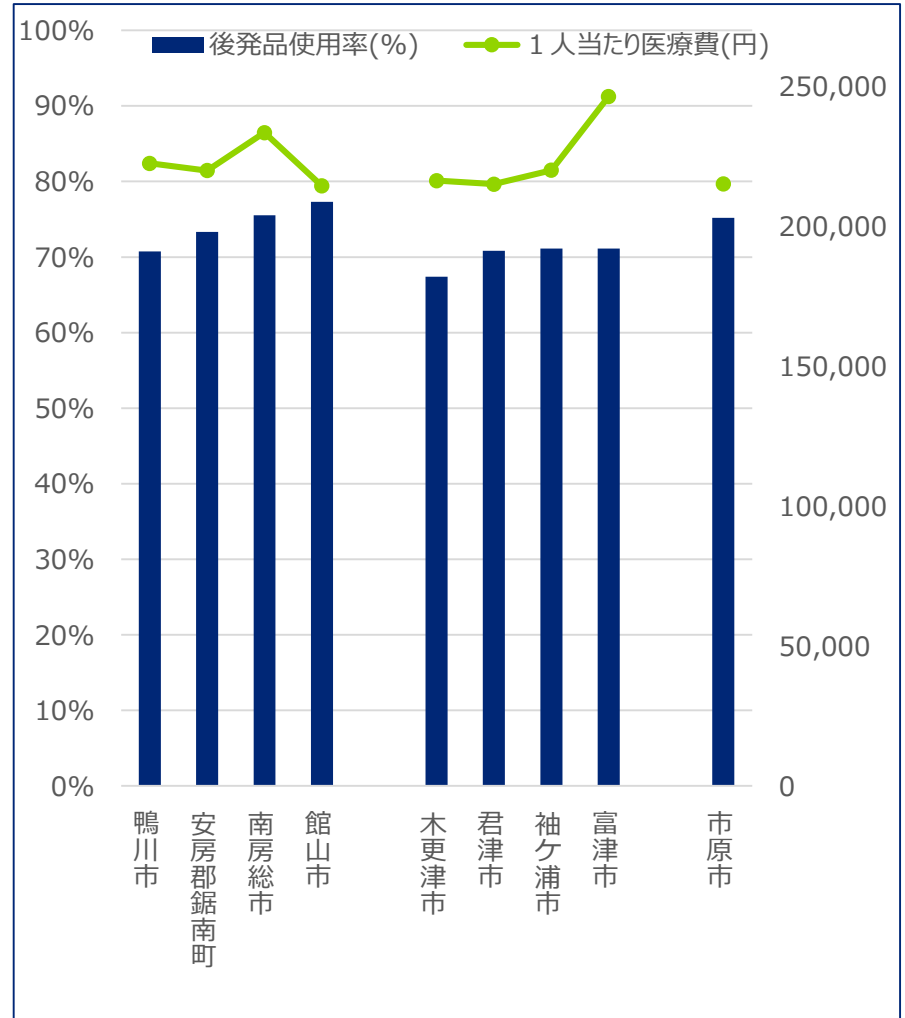
* 入院は除く

- 山武長生夷隅では後発医薬品の使用率は山武郡芝山町が最も高く、1人あたり医療費も低い。
反対に、長生郡長南町は後発医薬品の使用率が最も低く、1人あたり医療費も低い
- 君津地域は全体的に後発医薬品の使用率が低めである。

山武長生夷隅



安房・君津・市原

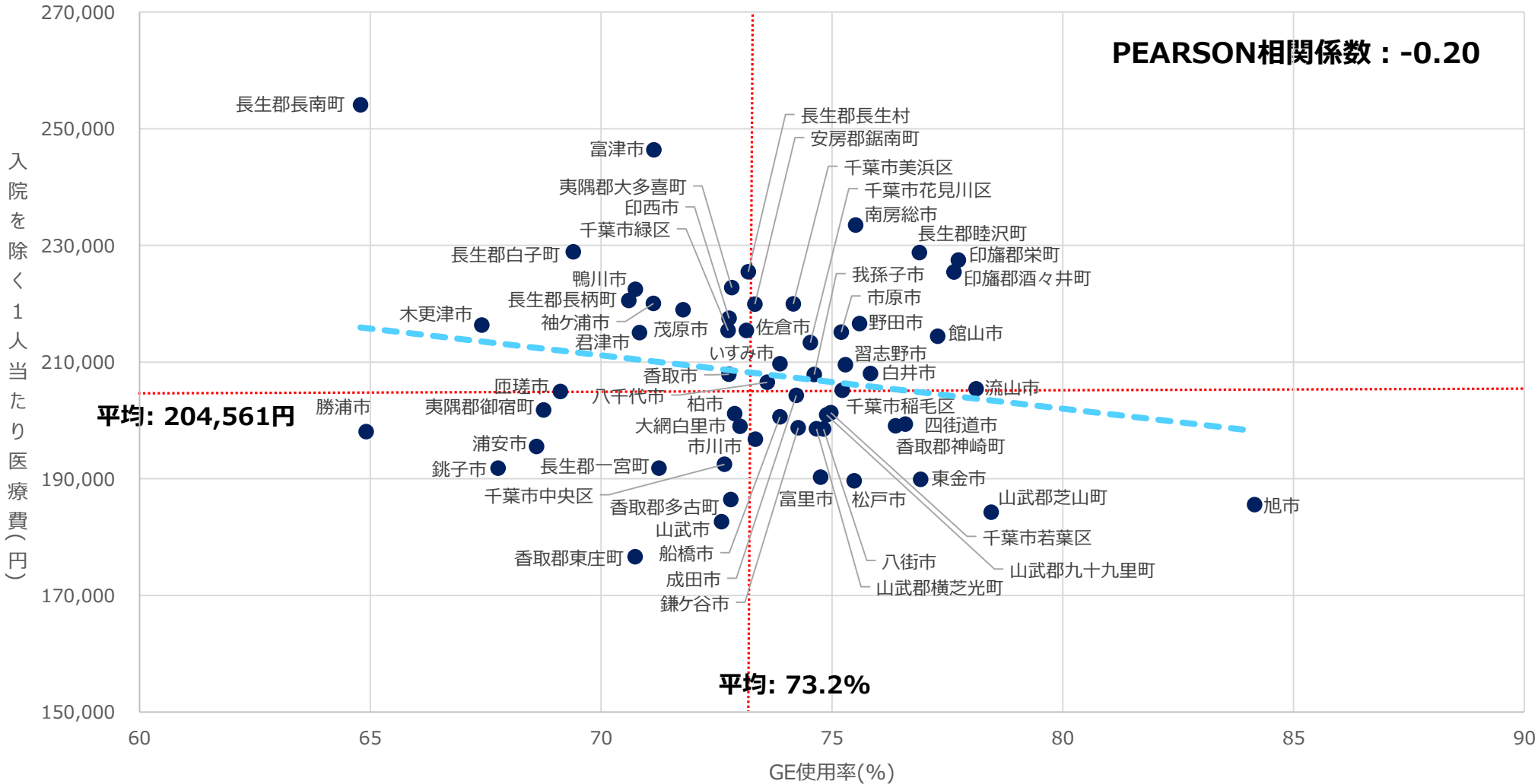


6-3. 後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費との相関（国保）

* 入院は除く

- 後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費では顕著な相関性は見られなかった。
- 市町村別にみると、長生郡長南町が後発医薬品の使用率が最も低く、かつ1人あたり医療費が最も高い。反対に、旭市は後発医薬品の使用率が最も高く、1人あたり医療費が低めとなっている。

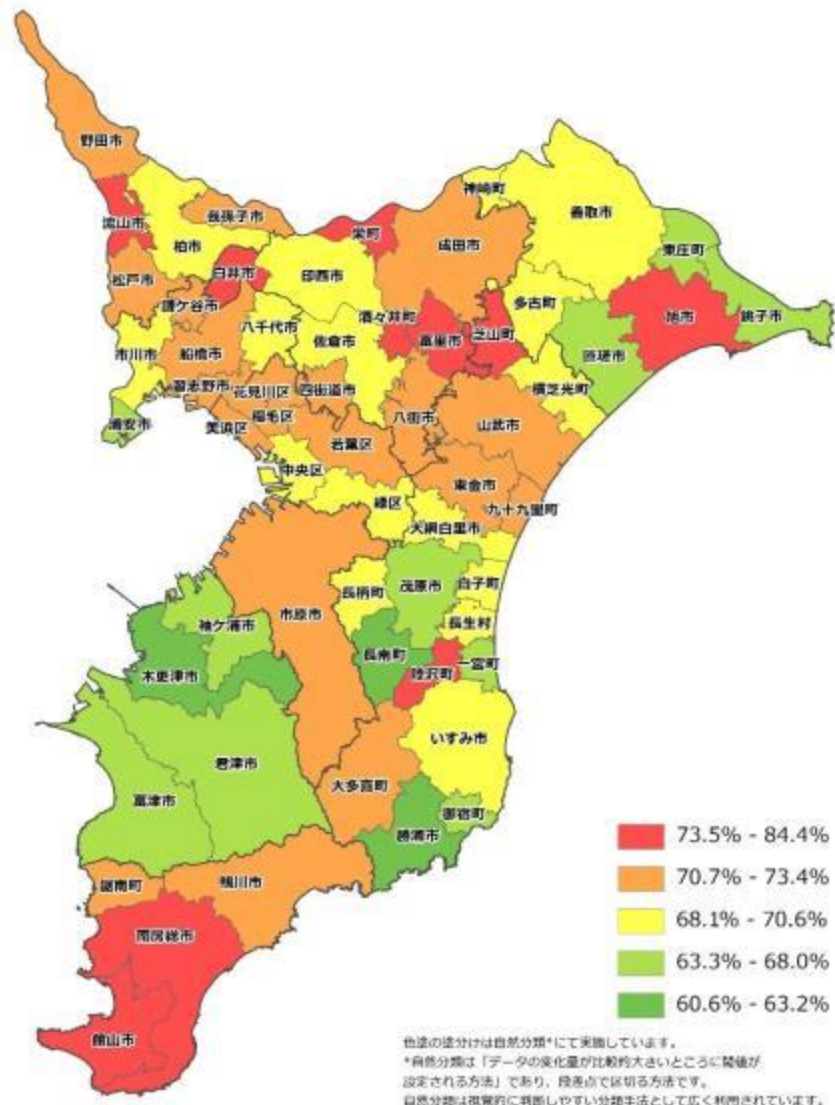
<国保>



6-4. 後発医薬品の数量割合（後期）

* 入院は除く

- 千葉県後期の平成30年度の後発品の数量割合は70.9%であった。
- 旭市が84.4%と最高値になっている。



市区町村	後発医薬品 数量割合(%)	市区町村	後発医薬品 数量割合(%)
旭市	84.4%	佐倉市	70.6%
館山市	77.7%	柏市	70.4%
長生郡睦沢町	76.9%	長生郡長生村	70.3%
印旛郡酒々井町	76.6%	いすみ市	70.2%
流山市	75.9%	山武郡横芝光町	70.2%
南房総市	75.9%	長生郡長柄町	70.1%
山武郡芝山町	75.8%	千葉市中央区	70.1%
富里市	75.7%	長生郡白子町	70.0%
印旛郡栄町	75.1%	千葉市緑区	69.8%
白井市	74.9%	八千代市	69.5%
八街市	73.4%	香取郡多古町	69.5%
習志野市	73.4%	印西市	69.3%
東金市	73.3%	香取郡神崎町	68.8%
鎌ヶ谷市	73.2%	大網白里市	68.8%
四街道市	73.0%	香取市	68.7%
安房郡鋸南町	72.7%	市川市	68.6%
市原市	72.6%	君津市	68.0%
松戸市	72.6%	袖ヶ浦市	67.7%
成田市	72.2%	長生郡一宮町	67.5%
夷隅郡大多喜町	72.0%	香取郡東庄町	67.1%
我孫子市	71.8%	茂原市	67.0%
千葉市美浜区	71.7%	富津市	66.8%
船橋市	71.7%	浦安市	66.7%
鴨川市	71.7%	銚子市	66.3%
野田市	71.5%	匝瑳市	66.0%
千葉市稲毛区	71.4%	夷隅郡御宿町	65.8%
山武郡九十九里町	71.4%	勝浦市	63.2%
千葉市若葉区	71.1%	木更津市	61.7%
千葉市花見川区	71.1%	長生郡長南町	60.6%
山武市	71.0%	千葉県平均	70.9%

県平均値
70.9%

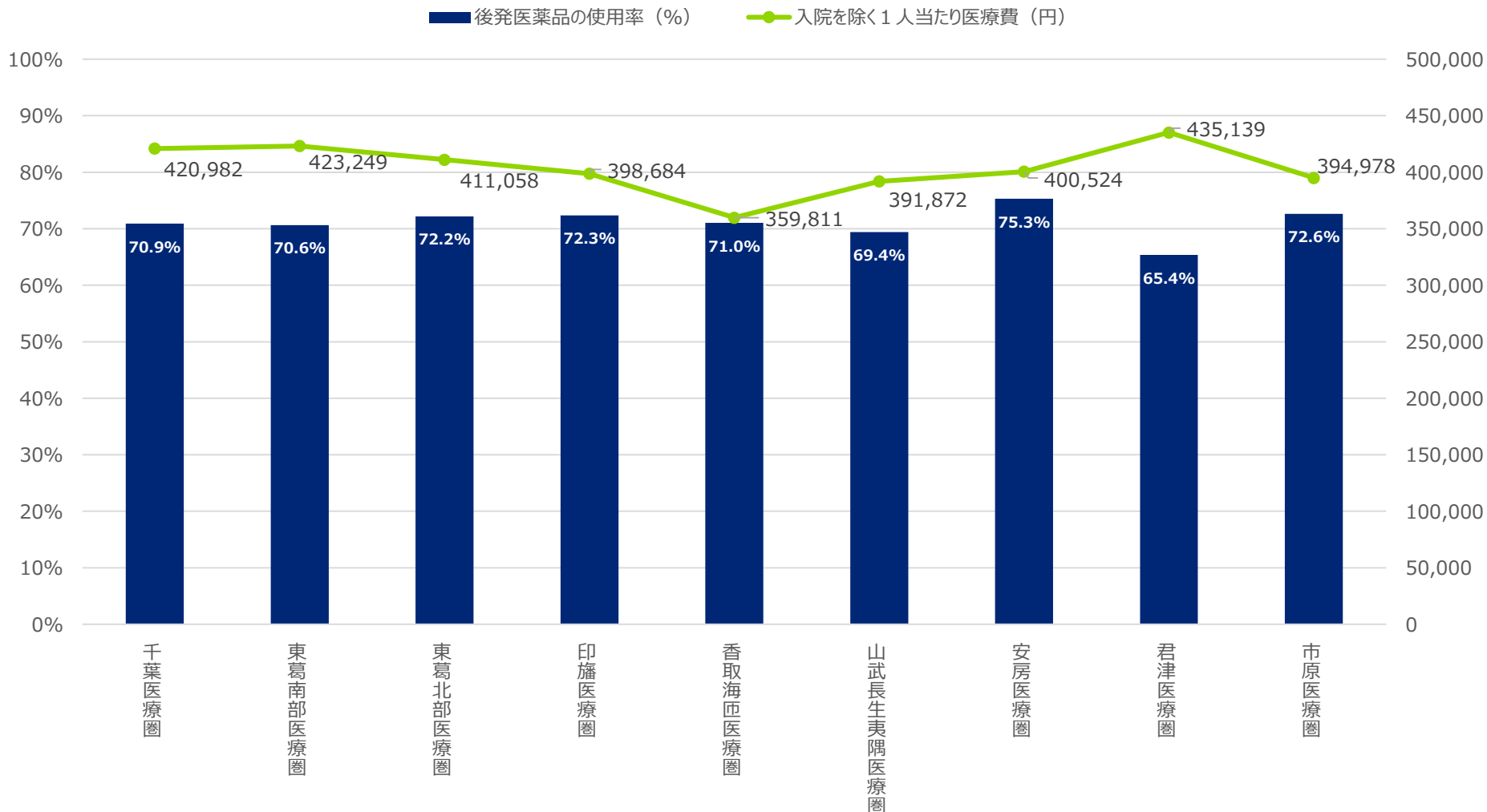
6-5. 後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費との関連（後期） 2次医療圏

*入院は除く

- 後発医薬品の使用率について2次医療圏別に見ると、安房医療圏で最も高く、国保同様、君津医療圏で最も低くなっており、その差は9.9%と国保より差が大きい。
- 被保険者1人当たり医療費では、君津医療圏で最も高く、香取海匠医療圏が最も低くなっている。

2次医療圏

<後期>

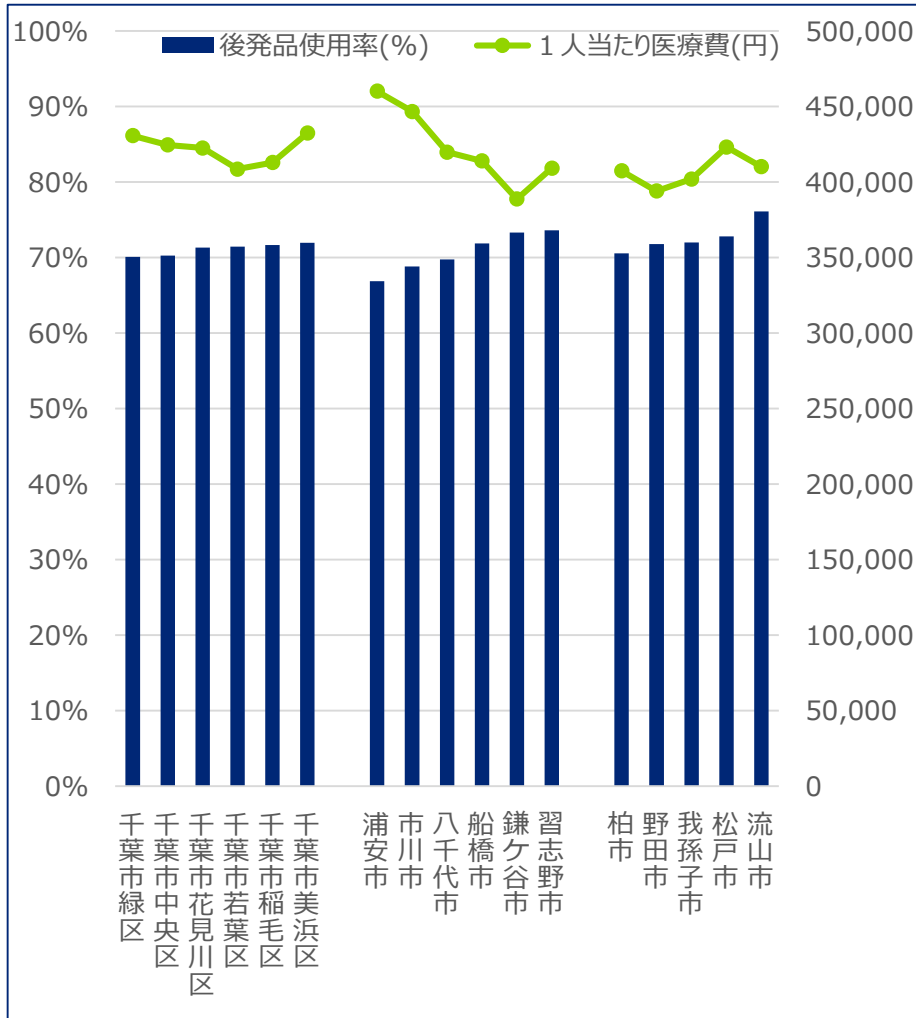


6-5. 後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費との関連（後期） 千葉・東葛南部・東葛北部／印旛・香取海匠

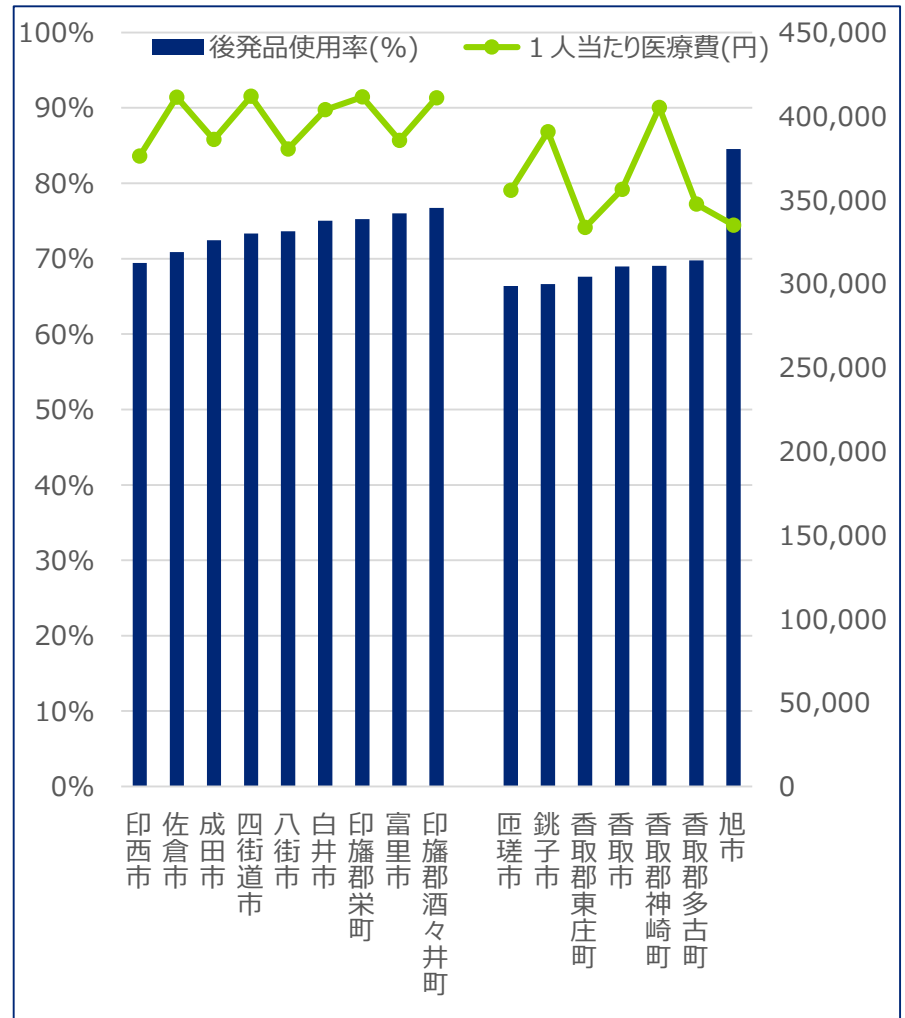
*入院は除く

- 千葉・東葛南部・東葛北部では後発医薬品の使用率は浦安市が低く、被保険者1人当たり医療費でも最も高い。
- 印旛・香取海匠では国保同様に旭市を除き、全体的に後発医薬品の使用率が低めである。

千葉・東葛南部・東葛北部



印旛・香取海匠

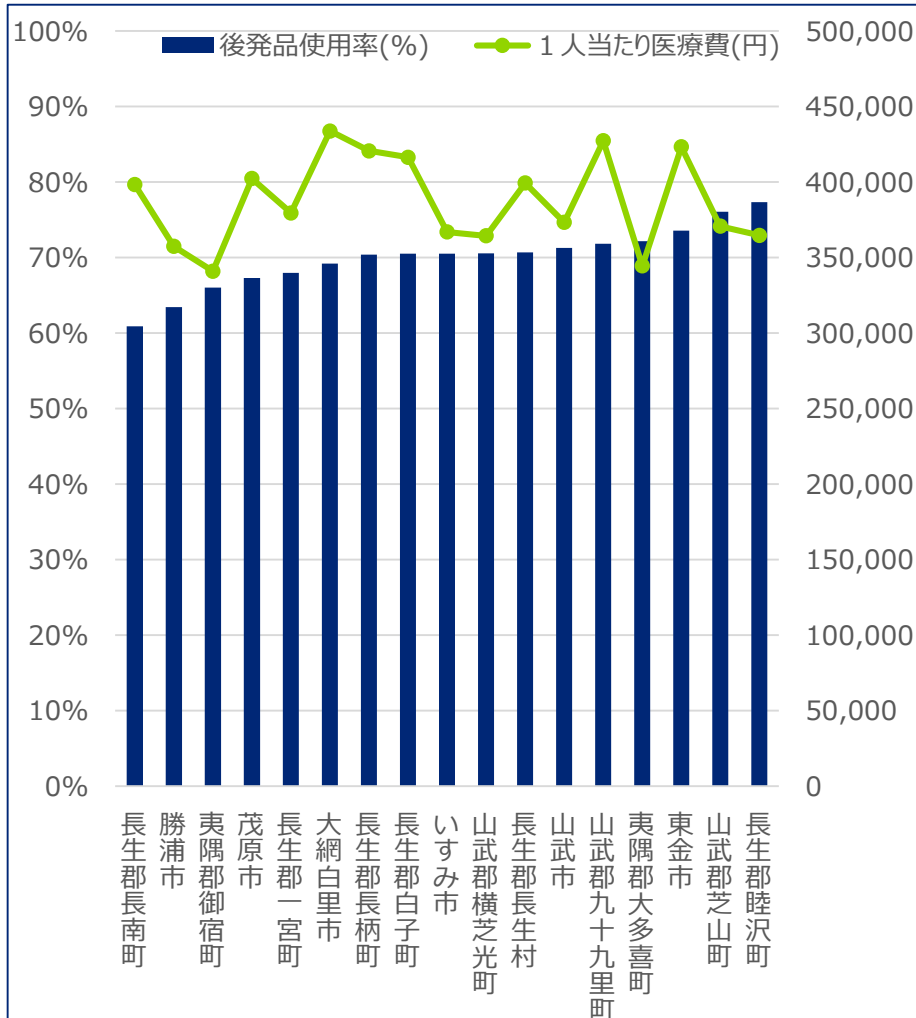


6-5. 後発医薬品の数量割合と被保険者1人あたり医療費との関連（後期） 山武長生夷隅／安房・君津・市原

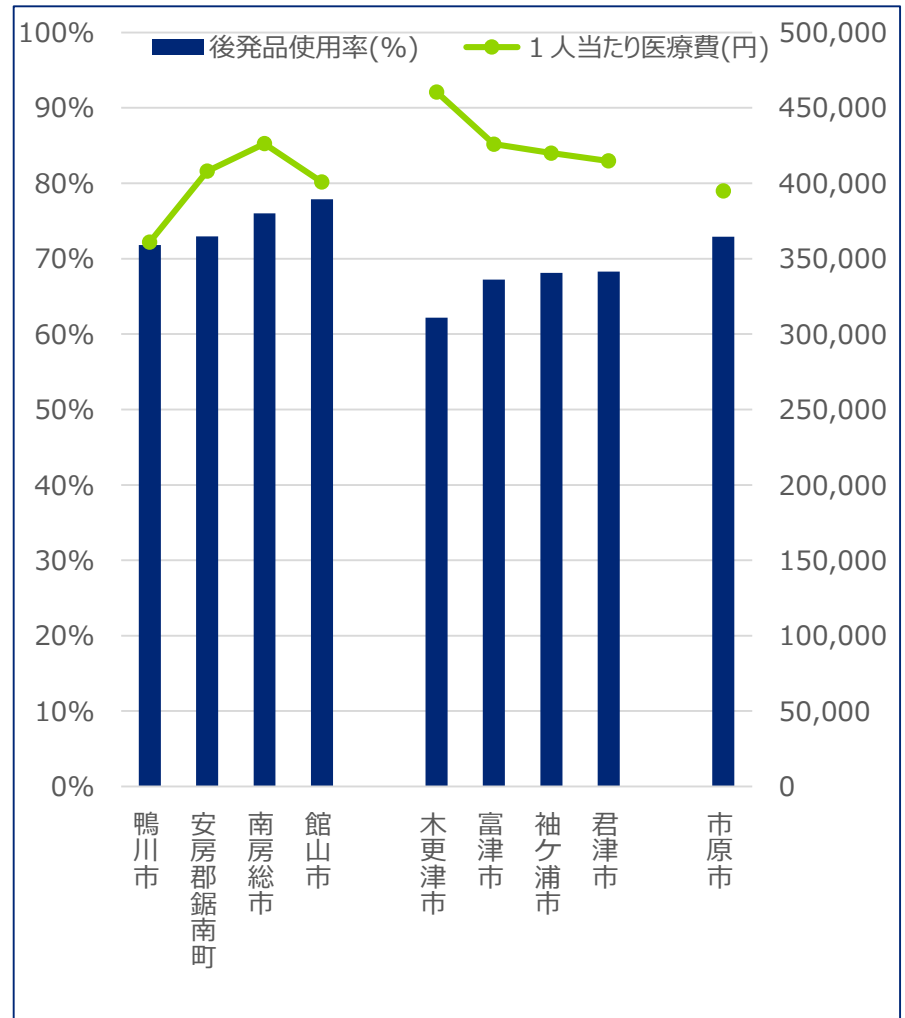
*入院は除く

- 山武長生夷隅では後発医薬品の使用率は長生郡睦沢町が最も高く、長生郡長南町が最も低い。
- 安房・君津・市原では、木更津市が後発医薬品の使用率が最も低く、被保険者1人あたり医療費も最も高くなっている。

山武長生夷隅



安房・君津・市原

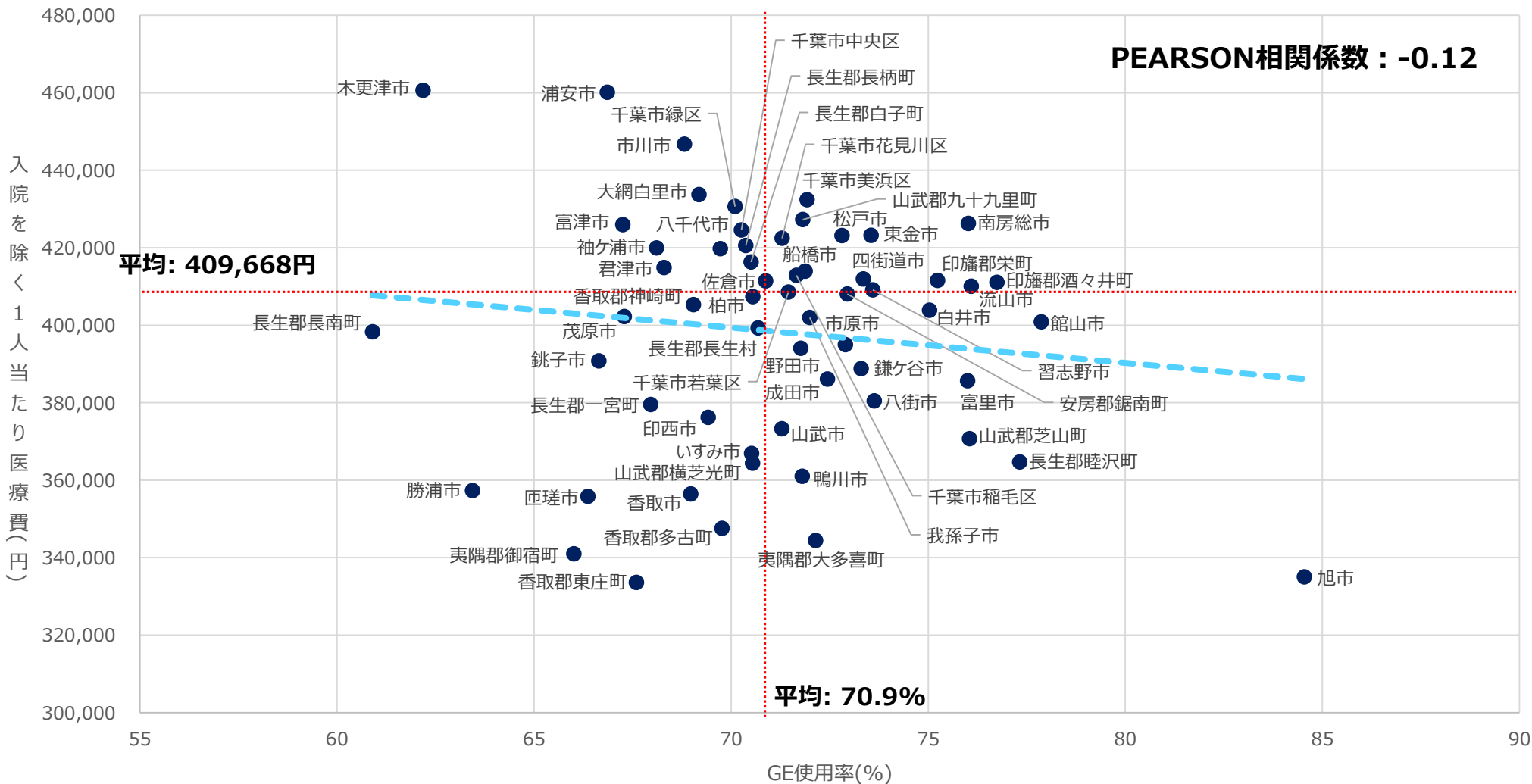


6-6. 後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費との相関（後期）

*入院は除く

- 国保同様に、後発医薬品の数量割合と被保険者1人当たり医療費では顕著な相関性は見られなかった。
 - 市町村別にみると、木更津市が後発医薬品の使用率が低く、かつ1人あたり医療費が高い。
- 反対に、国保同様に旭市は後発医薬品の使用率が最も高く、1人あたり医療費が低めとなっている。

<後期高齢>

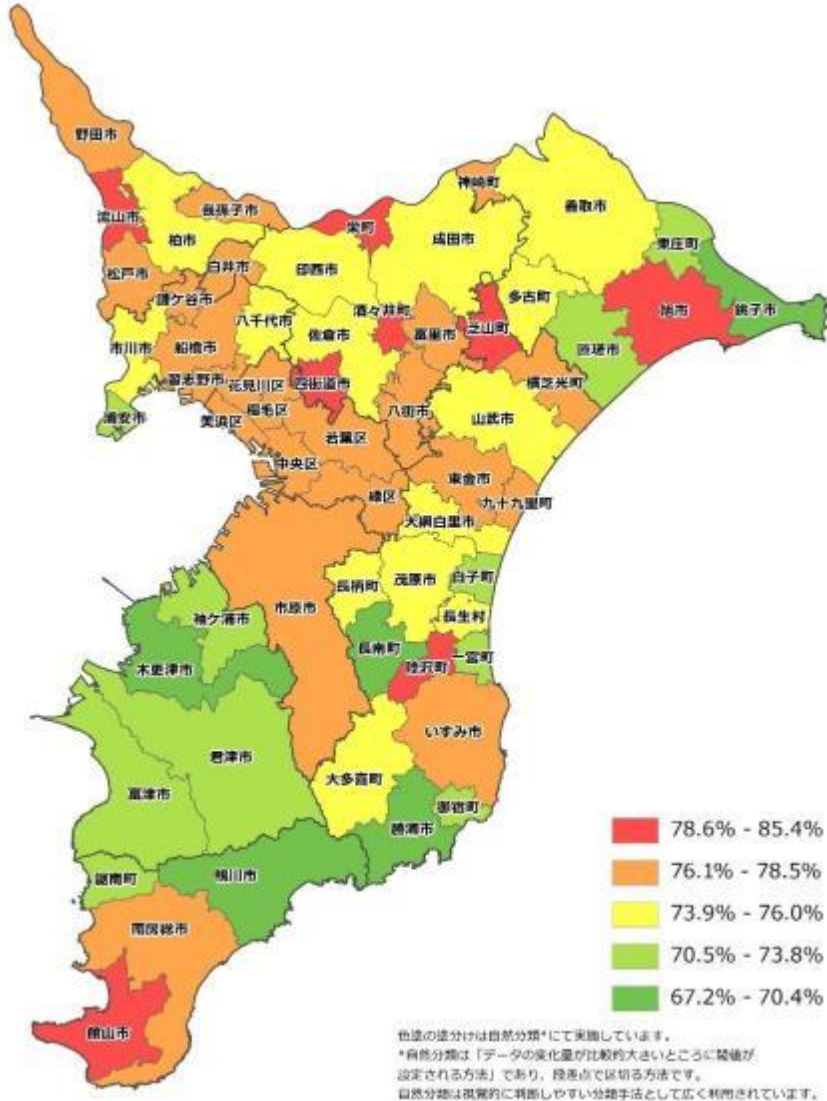


6-7. 【参考】後発医薬品の数量割合（国保、県のみ後期）（NDBデータ_千葉県）

*入院は除く

- 千葉県国保の平成30年度の後発医薬品の数量割合は76.2%であった。
- 旭市が85.4%と最高値になっている。

<国保>



<国保>

市町村	後発医薬品 数量割合(%)	市町村	後発医薬品 数量割合(%)
旭市	85.40%	成田市	75.60%
山武郡芝山町	80.80%	大網白里市	75.60%
流山市	79.90%	八千代市	75.50%
印旛郡栄町	79.90%	山武市	75.40%
印旛郡酒々井町	79.10%	柏市	75.40%
長生郡睦沢町	79.10%	印西市	75.10%
四街道市	79.00%	香取市	74.80%
館山市	79.00%	長生郡長柄町	74.80%
東金市	78.50%	香取郡多古町	74.60%
松戸市	78.20%	夷隅郡大多喜町	74.50%
白井市	78.10%	長生郡長生村	74.50%
野田市	78.00%	茂原市	74.20%
八街市	77.60%	安房郡鋸南町	73.80%
我孫子市	77.50%	夷隅郡御宿町	73.70%
南房総市	77.50%	香取郡東庄町	73.40%
習志野市	77.50%	富津市	73.20%
鎌ヶ谷市	77.20%	袖ヶ浦市	73.20%
いすみ市	77.10%	長生郡一宮町	73.10%
市原市	77.10%	君津市	72.60%
富里市	77.00%	匝瑳市	71.90%
山武郡横芝光町	76.90%	浦安市	71.60%
山武郡九十九里	76.70%	長生郡白子町	71.60%
千葉市	76.70%	勝浦市	70.40%
香取郡神崎町	76.50%	鴨川市	70.20%
船橋市	76.40%	木更津市	70.10%
佐倉市	76.00%	銚子市	70.00%
市川市	75.60%	長生郡長南町	67.20%
国保全国平均	70.90%	千葉県平均	76.20%
後期全国平均	68.80%	同規模(埼玉県)	76.10%

県平均値
76.2%

<後期>

	後発医薬品数量割合(%)
千葉県後期	73.4%
埼玉県後期	74.1%